

羽の色が鮮やかな金属光沢に光り輝くチョウとして南米地域に産するモルフォチョウが有名だが、まさにモルフォチョウの輝きを思わせるのがこの小さなルリウラナミシジミだ。

南国沖縄で蝶を追うことなど夢の中の夢であって、実際に行けるなどとは考えもしないでいたのが、ひょんなことから1993年9月に業務出張で琉球大学医学部の血管外科教授と面談できるという機会を得た。業務を終えた当日に沖縄本島を台風が直撃したが、かろうじて風速25mを越える直前の最後の路線バスで名護市まで移動した翌日、台風一過の本部半島でツマベニチョウとの出会いに感激。その後、めったに行くチャンスもないだろうからと、石垣島まで足をのばしたバナナ公園で、種名が分からないままにネットインしたのが初めて見る本種であり、紀行文には以下のように記述している。



1993年9月4日：石垣島バナナ公園裏手；沢を越えて緩やかな坂道を左に登りきるあたりから木陰道となって両側にハイビスカスの並木が続く。その根元一带にセンダングサが咲く道路沿いではヒメウラナミシジミがチラチラと遊んでいるがツマベニチョウはきわめて少なく、結局、石垣島でネットインはできずじまい。黒っぽくてすばやい動きのシジミチョウを捕らえてみると美しいルリウラナミシジミ。

この沖縄業務出張をきっかけとして、沖縄・八重山はその気になれば意外と簡単に行けるところだと認識を新たにして、結局、すっかり蝶ウイルス感染による八重山病にかかってしまうのだが、1997年10月31日の石垣島オモト林道で経験した無数の本種がキラキラと紫の輝きを見せ



ながら飛び交う状況は、その後あまりみていない。その飛翔はとても速く、シロノセンダングサで吸蜜中の♂をビデオ撮影記録がとれたのは2012年12月の石垣島伊原間。故金子實氏による撮影記録

がしっかり後翅の輝きをとらえているのに比べると、残る課題は山積みだ。

2012年12月の訪問時には、石垣島オモト林道でクロバナツルアズキに産卵直後の卵をいただき、高砂市でインゲンマメを与えて飼育したが、きれいな♂は羽化しなかった。

